

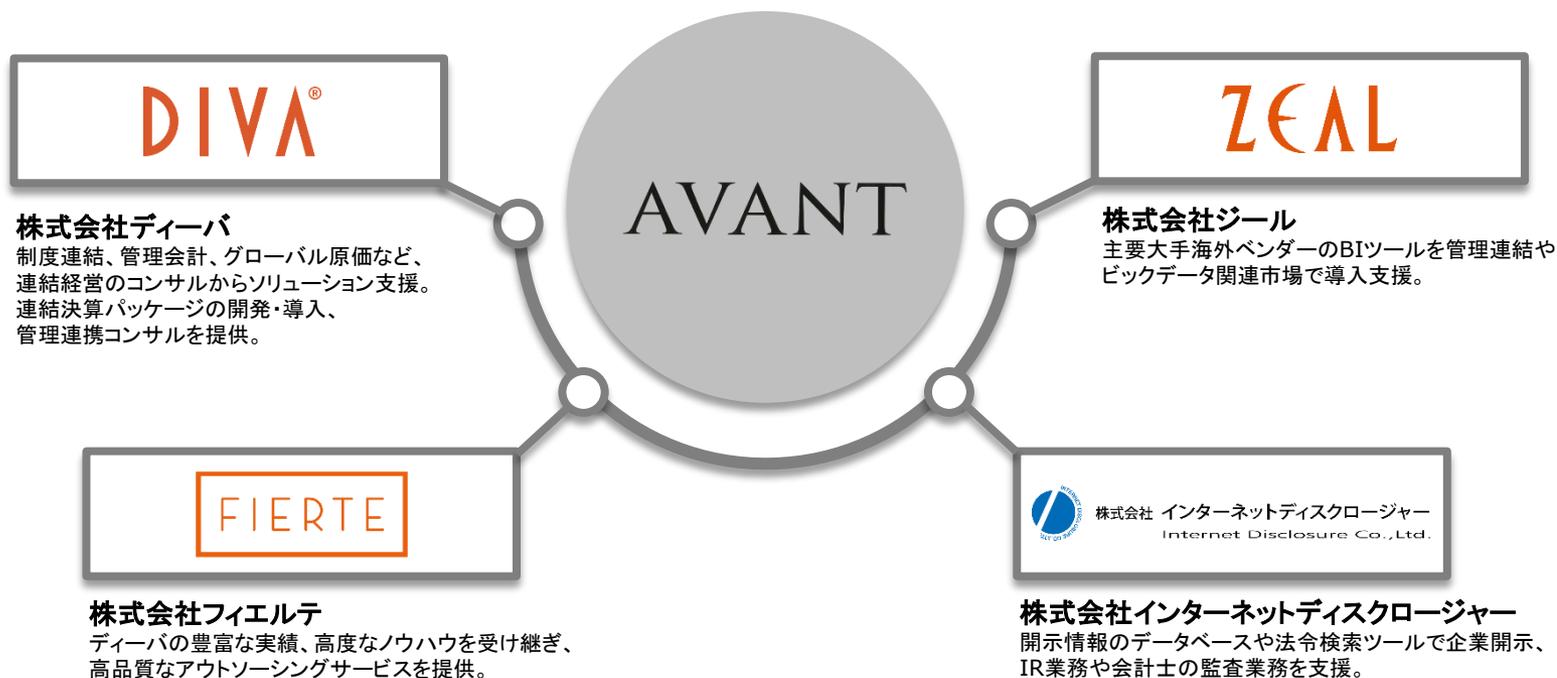
【HULFT×DIVA】企業のグローバル化に 対応した経営管理システム導入事例ご紹介

株式会社ディーバ
CPM事業部

DIVA®

Group Profile

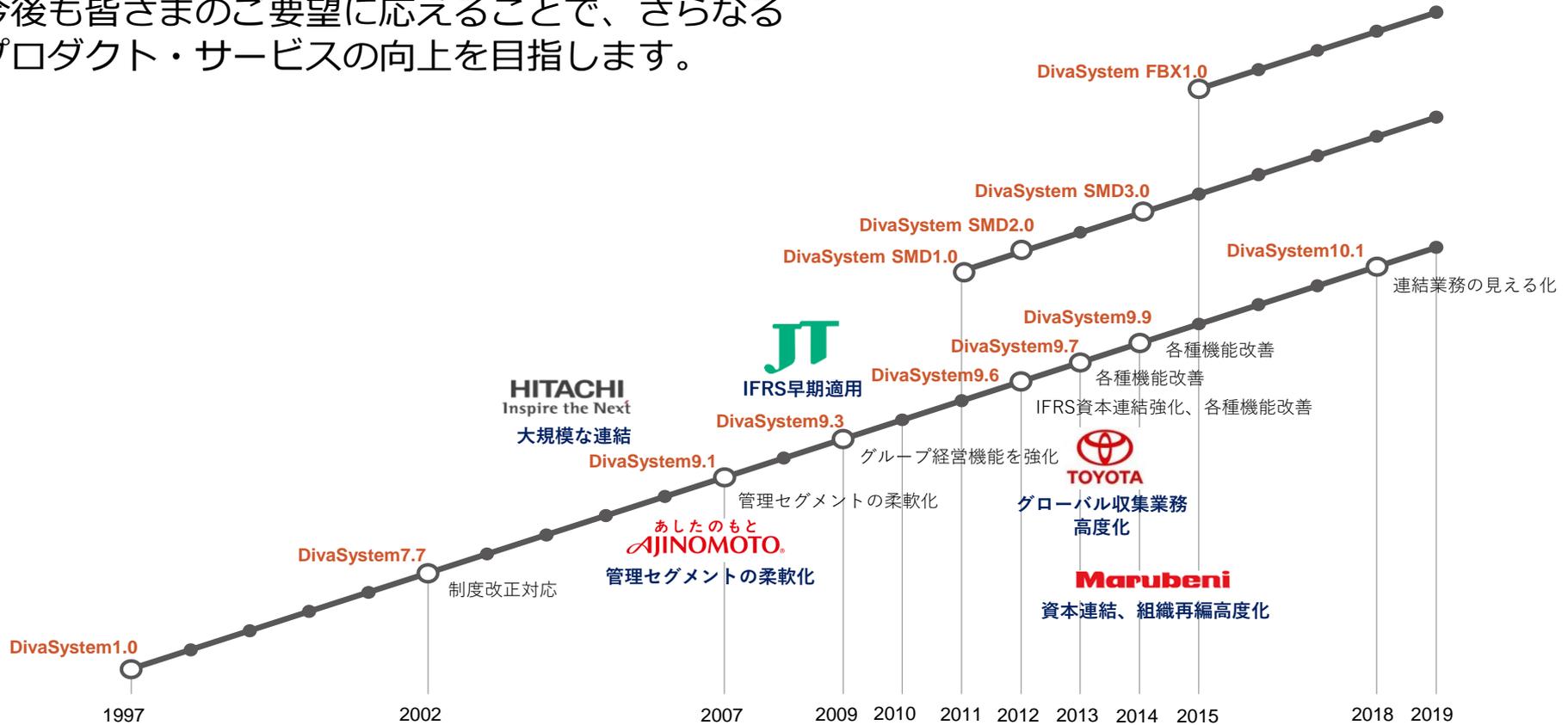
持株会社AVANTを中心に、多様な事業を展開しております。



History of Products

創業以来お客様とともに、成長し続けてきたディーバの
プロダクト。

今後も皆さまのご要望に応えることで、さらなる
プロダクト・サービスの向上を目指します。



導入事例紹介

導入企業情報

業種 : 製造業 (電気機器)
売上高 : 800億円
連結子会社 : 21社 (内18社が海外拠点)

導入したシステム

- ◆ HULFT-WebConnect
- ◆ DivaSystemSMD

HULFT-WebConnect



 DivaSystem SMD

システム導入に至る背景

- ◆ 全世界に散見するグループ各社の経営情報が、月次締め後しか集まっておらず、リアルタイムな情報に基づく、タイムリーな経営判断ができない。
- ◆ 紙資料やExcelファイルの報告では、ファイル回収や集計作業に手間がかかるため、更新頻度も月次が限界となり、刻々と変わる状況をリアルタイムに共有できない。
- ◆ Excelファイルのやり取りでは集計作業に大半の時間を取られ、本来おこなうべき、分析や改善策検討・実施・成果確認の時間が取れない。

システム導入目的・基本方針

- ◆ 全世界に散見するグループ各社の情報を[統合データベース](#)に集約し、[一元管理](#)する。
- ◆ 統合データベースの更新 (情報収集・蓄積) は、[リアルタイム更新](#)で、[運用負担が大きくない方法](#)とする。
- ◆ 更新された情報は [ボーダーレス \(世界全拠点に展開\)](#) な共有資産とする。
- ◆ 統合データベースは作ったら終わりではなく、[継続的に拡張・発展](#)させていく。

DivaSystemSMD 導入前の業務イメージ

データのやり取りが頻繁、加工集計の処理が複雑、分析に時間が取れない

手作業が多い為、手間も
かかり入力ミスも発生する

メールでのやり取りが多く
入力ファイルの管理ができな
い

集計結果を参照できない
(フィードバックがない)

数値チェック、集計の負担
が大きく本来の分析作業が
できない

基幹システムを全社統一し
たいがコスト的に現実的で
ない



本社

入力ファイル
回収

入力ファイル
チェック

集計

報告



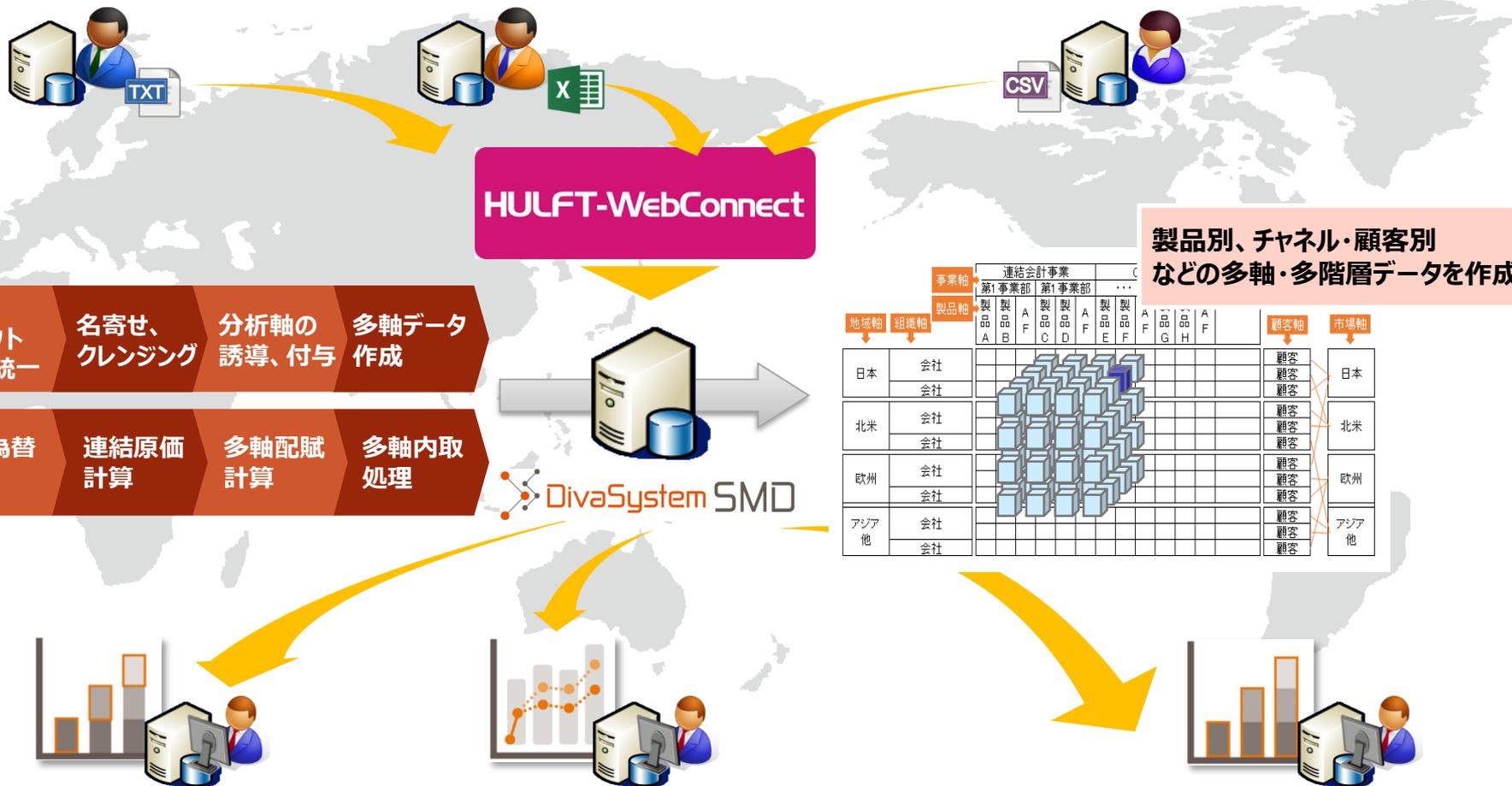
【管理部門】



【情報システム部】

DivaSystemSMD 導入後の業務イメージ

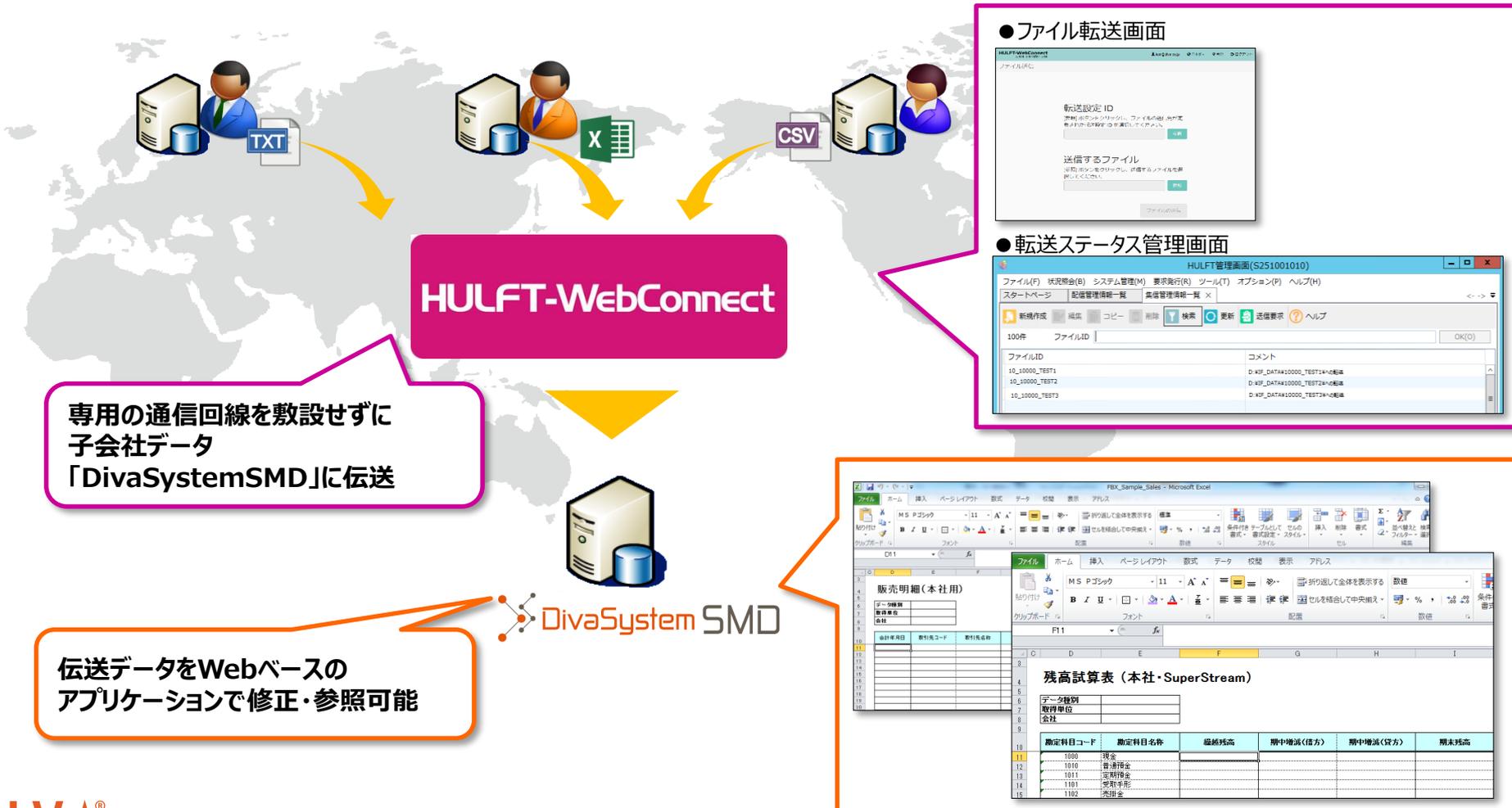
リアルタイムなデータ収集 ▶ 加工・集計処理ロジック ▶ レポートングツール
すべての機能をオンライン化しシームレスに運用



- 各社レイアウト変換、統一
- 名寄せ、クレンジング
- 分析軸の誘導、付与
- 多軸データ作成
- 多軸為替換算
- 連結原価計算
- 多軸配賦計算
- 多軸内取処理

課題解決の具体的な取り組み (Input)

全世界に散らばるデータを、日々の夜間処理で自動的に伝送



課題解決の具体的な取り組み(Process)

各システムで異なるデータ形式を、グローバルで統一

- 各システムによって、見出しの出力有無や明細行（合計行）の二重出力など情報の形式がちまちま

① すべて借方／貸方別、勘定科目単位に出力されるパターン（システムとしては扱いやすい）

コード	勘定科目 名称	期首残高		期中増減		期末残高	
		借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
T000-000	現預金	10,000	3,000	3,000	8,000	8,000	
1100-000	売掛金	1,000,000	300,000	200,000	1,100,000		
1300-000	未収入金	500,000	100,000	150,000	450,000		

☞ 見出しは必要ないため削除

借方と貸方を差し引きし残高にする
貸倒引当金などの土符号を調整する等の
細かい違いをデータ取り込み時に補正

② 残高は発生プラス、勘定科目と枝番が併記で出力されるパターン（勘定科目により借方／貸方の判定や不要行の削除が必要）

勘定科目コード	名称	期首残高	借方	貸方	期末残高
A0001	現預金	10,000	3,000	1,000	12,000
A0001-001	現預金 - 小口現金	3,000	500	300	3,200
A0001-1.01	現預金 - ○○銀行	7,000	2,500	700	8,800
B0001	売掛金	1,000,000	300,000	200,000	1,100,000
C0001	未収入金	500,000	100,000	150,000	450,000

☞ 合計と明細で重複しているため、どちらかは削除

- 各社で異なる勘定科目体系を統一コード体系に変換。
- 各システム（各社）毎にプログラム構築せず、ユーザー側で変換定義を登録する為、勘定科目の追加・削除にも容易に対応が可能。

固定行削除制御マスタ

会社	データID	明細番号	削除区分	削除行	摘要
20000 : 会社A	00 : [全てデータID]	01	1 : 先頭から	1	
20000 : 会社A	00 : [全てデータID]	02	2 : 末尾から	3	
20200 : 会社B	00 : [全てデータID]	01	1 : 先頭から	6	

DivaSystem SMD

勘定科目変換マスタ

変換/元コード	変換/元	変換/先コード	変換/先	変換/先	摘要
SAP60	12345	12345	売上高		
SAP60	61320	61320	(固定費)販_給与手当	5桁で個々に変換(運転手当)	
SAP60	61310	61310	(固定費)販_給与手当	5桁で個々に変換(寒冷地手当賃金)	
SAP60	61200	61200	(固定費)販_給与手当	5桁で個々に変換(基準外賃金)	
SAP60	61100	61100	(固定費)販_給与手当	5桁で個々に変換(基準内賃金)	
SAP60	61	61	(固定費)販_給与手当	上2桁でまとめて変換も可能	
SAP60	62	62	(変動費)販_販売手数料		
SAP60	6	6	(固定費)販_その他	6始まりの残りますべて	
SAPB1	20000000	20000000	(固定費)製_給与手当		
SAPB1	10000000	10000000	(固定費)製_減価償却費		
SAPB1	60000000	60000000	(固定費)販_減価償却費		

各システム（各社）毎にプログラム構築せずユーザー側で取込定義を登録するため、取込定義の変更にも容易に対応

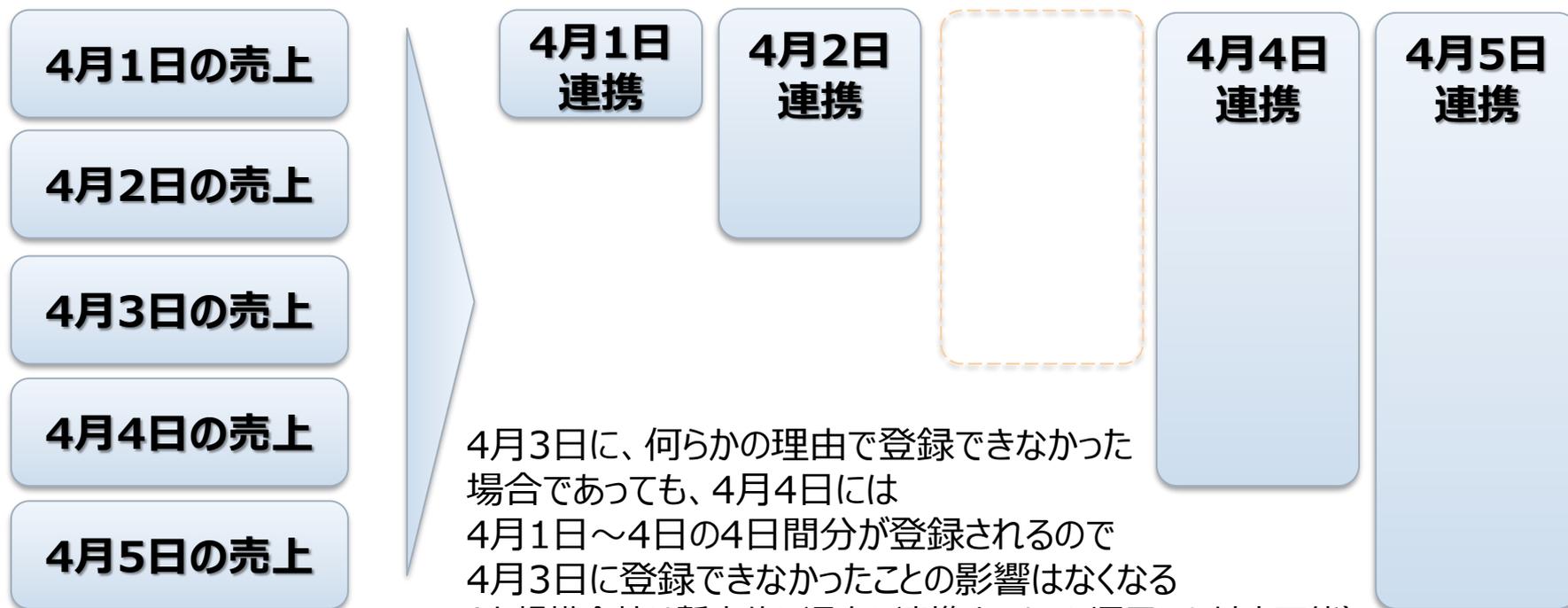
- SAP を使われている会社はパターン“SAPXX”の設定で変換など会社・システム毎に変換パターンを設定
- 勘定科目コードの頭X桁での先頭一致変換機能なども活用

課題解決の具体的な取り組み (Operation)

実運用を考慮した設計 (日次対応が困難な拠点のケア)

- 初期段階ではリアルタイム (日次) 運用は要求が厳しすぎることも想定された
- このため、数日更新が漏れても救済できる月次累計方式での対応

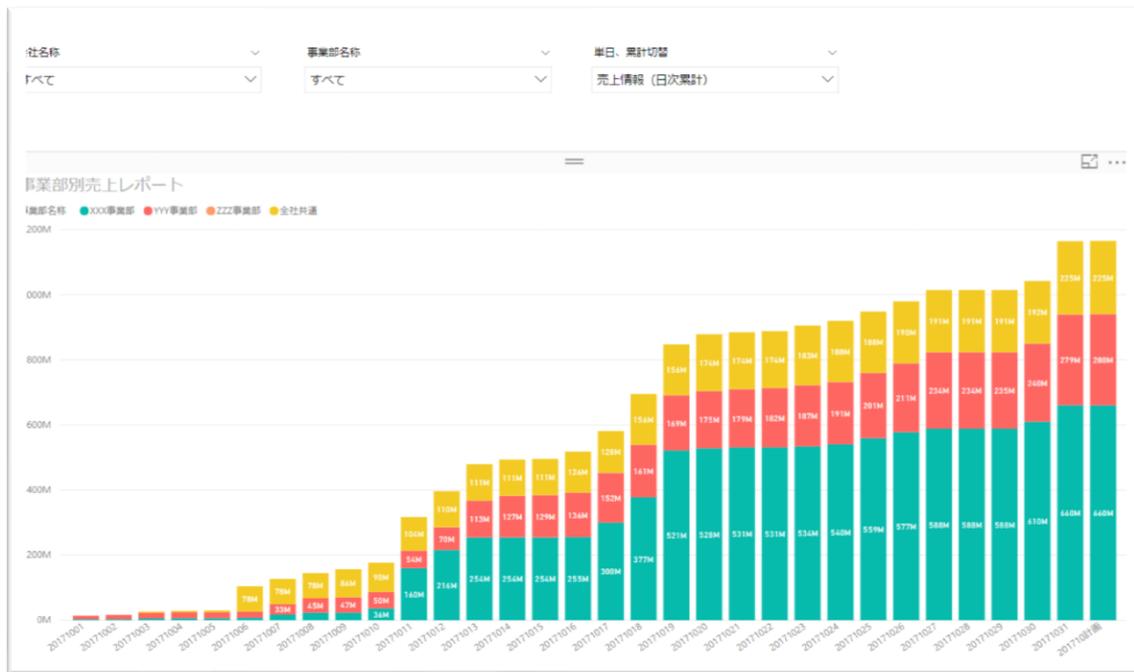
4月2日には、前回登録した4月1日分を削除して4月1日～2日の2日間分を登録。



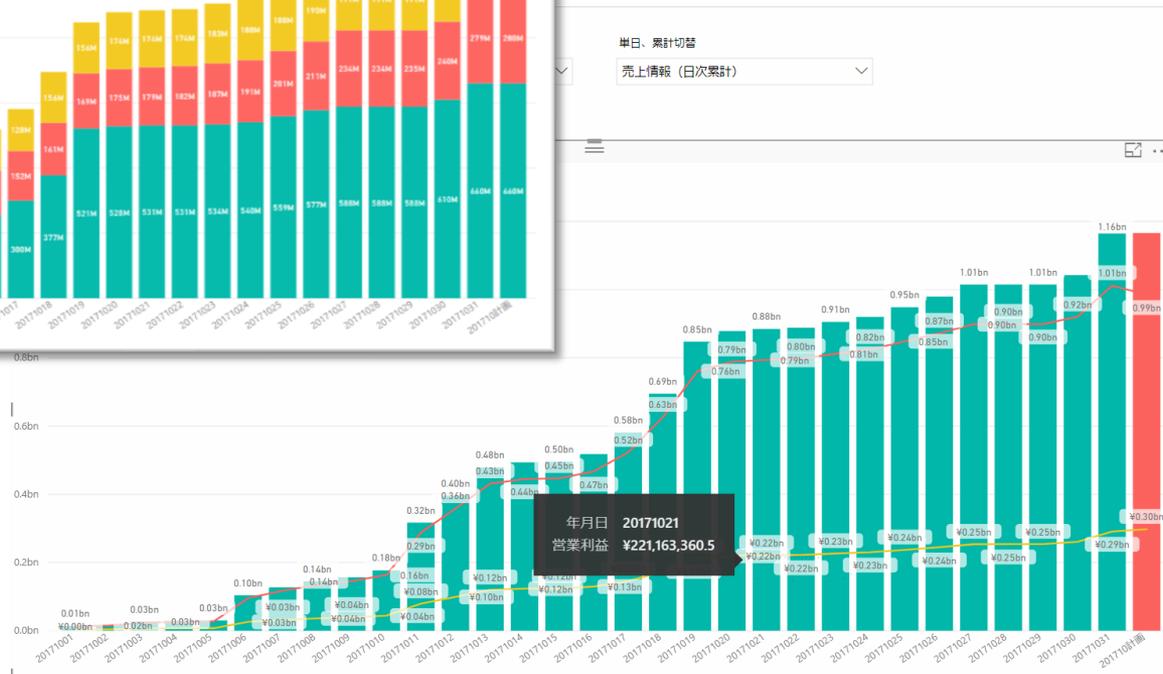
4月3日に、何らかの理由で登録できなかった場合であっても、4月4日には4月1日～4日の4日間分が登録されるので4月3日に登録できなかったことの影響はなくなる (小規模会社は暫定的に週次に連携するような運用にも対応可能)

課題解決の具体的な取り組み (Output)

グローバル全拠点の売上/利益の情報をDailyで経営陣に共有



売上情報は、日次更新される
→ 月中でも、日次の積上げ結果を参照可能



損益情報も、日次更新される
→ 原価情報は、各種ライブラリにて
暫定付与

DivaSystemSMDによる課題解決



経営層



本社管理者



情報システム



迅速な経営判断ができない

- いま欲しい情報がタイムリーに上がってこない
- 欲しい情報が紙媒体でしか見ることができない

課題1



業務の作業負担が大きい

- 全社からの情報回収がメール添付のため、管理業務負担が大きい
- 各社異なる情報を個社毎に変換・集計するため、作業が属人化

課題2



全社統合システムを整備できない

- 各社異なる基幹システムを統合したいが、コストが見合わない
- 乱立する基幹システムのデータ抽出作業で忙殺される

課題3



リアルタイムな全社統合情報に基づく経営判断が可能

- オンライン化により、随時更新・整理された情報をリアルタイムに報告・受領
- オンライン化により、最新情報を様々な媒体で見ることが可能

解決1



情報の回収・蓄積の自動化が可能

- オンライン化により、全社の情報を自動連携し、煩雑な管理業務から脱却
- 個社毎の変換・集計を自動化し、作業負担を軽減

解決2



全社統合データベースを整備が可能

- 基幹システム統合より安価な金額で、全社統合データベースを整備
- オンライン化により全社統合データベースを自動連携し、本来の改善検討に注力可能

解決3

SMD ソリューションラインナップ

会計を軸とした経営管理領域にターゲットを絞りながら、以下の歯車が相互に連動する姿を目指すものが、**DivaSystem SMD**を軸としたCPMソリューション

- ✓ データ活用型の経営を実践する為の、強力な分析基盤の提供、立ち上げを支援

データ分析
ソリューション

- ✓ グローバルでのモノの動きをダイナミックにカネの動きに連動させ、損益・資金シミュレーションを実現
- ✓ 予算立案や予実実績管理などの計画系業務全般をサポート

計画系
ソリューション

モノ・カネ情報の連動
将来予測・最適化

- ✓ 各社の基幹システムから各種データを連携・統合した上で、連結ベースでの経営管理を実現

実績系
ソリューション

- ✓ 各社のデータ統合していく上で必要となる、海外拠点中心とした現地調査およびシステム改修などをお客様に代わり（と共に）推進

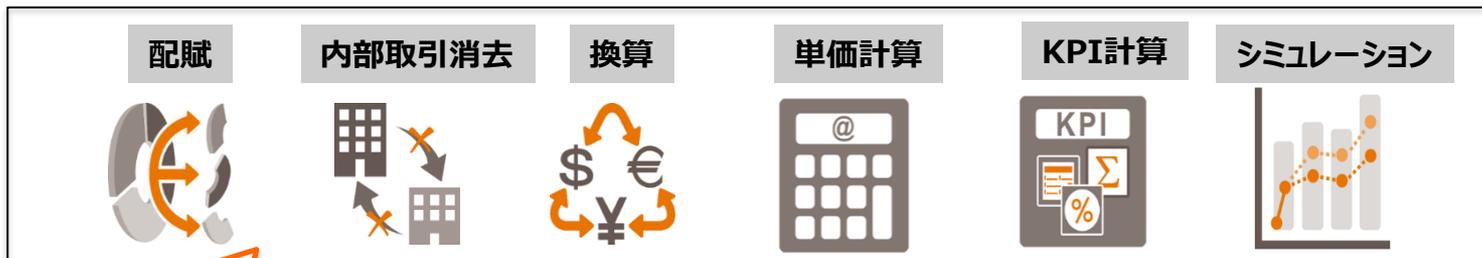
データ統合
ソリューション



DivaSystem SMD

SMD機能イメージ_Process

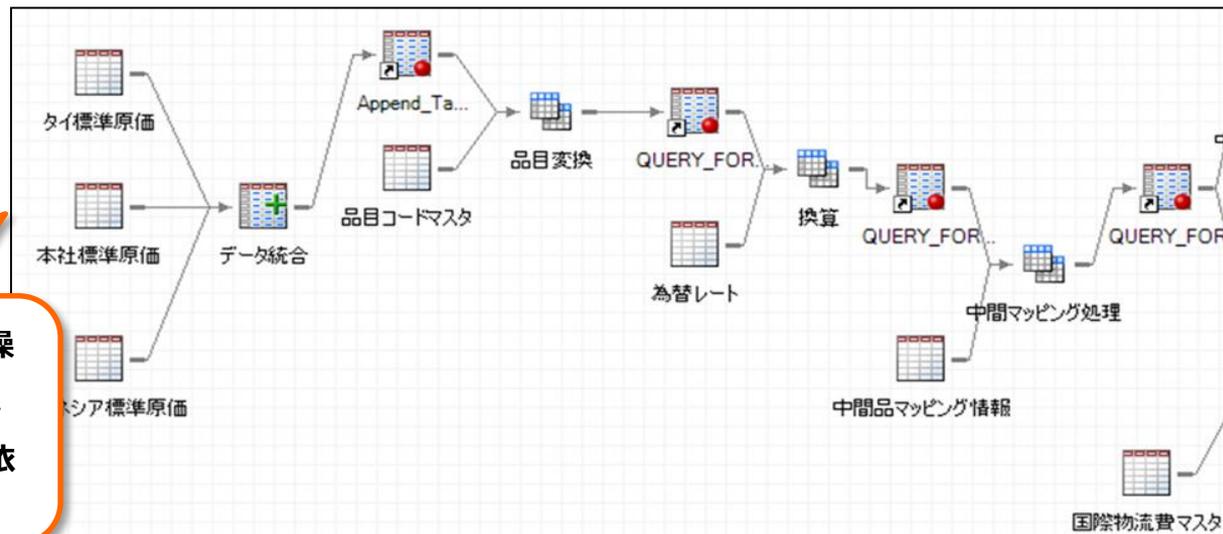
- 加工・集計処理を可視化
- 豊富なライブラリの組み合わせでニーズにあったシステムが構築可能



連結管理会計に求められる各種会計演算機能は、会計ライブラリとして事前提供

- データ加工は、専用タスクを用いてGUI操作で自由に加工することが可能
- 複雑なプログラミングはしない為、処理がブラックボックス化せず、担当者のスキル依存しない開発手法が可能

 DivaSystem SMD

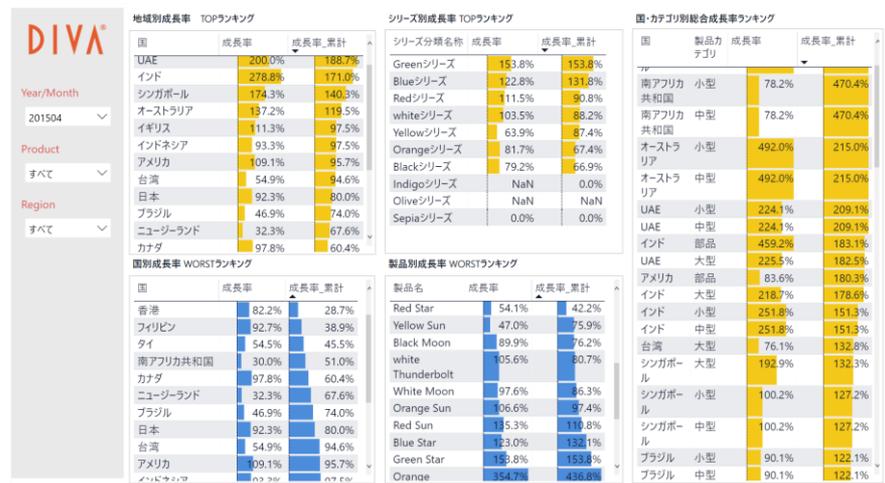


SMD機能イメージ_レポートサンプル

ダッシュボード形式での分析



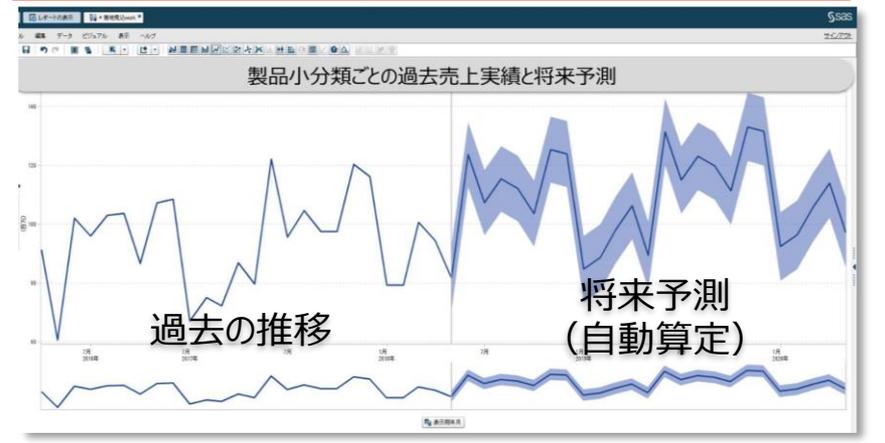
商品・地域などのドリルダウン分析



投資優先度判断 (変形PPM)



過去情報からの将来予測 (自動)



DIVA®